



素粒子物理学実験の現場から

第19回

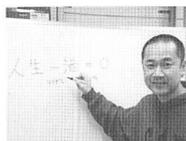
大阪大学 花垣 和則

LHCは年内の陽子陽子衝突プログラムを終え、12月中旬までは重イオン衝突実験を行います。ヒッグスや超対称性発見を目指す陽子陽子衝突は来年の初めに再開されます。ということで(?)今回は、実験現場から離れて、研究者や学生の日常生活、というか、習性を少しお話ししようかと思います。

そう言っておきながら、研究者が特別変わった生活を送っているとは思えません。変わった食べ物を食べているわけでも、変わった趣味を持っているわけでも(たぶん)ありません。あ、服装に関しては異彩を放っている人が多いかも。学会初日、会場がわからなくても、ある傾向を持った服装(スーツでもカジュアルでもない微妙な服装+なぜかデイパックがやたら多いetc.)の人たちが歩いている方向に向かえば、大抵会場に正しく着けます…。うっ、他の人から見るとやっぱり変わっているのかもしれないね。

服装以外で研究者っぽいと感じるのは、多くの人が議論好きなところでしょうか。ついでに言うと、パーティ好きな人が多く、そこで酒を片手に議論で盛り上がるということがよくあります。議論をすることが仕事の一部ですので、アルコールの力で饒舌になった研究者同士は時に激しい議論を交わすこともあります。議論慣れしていない人から見るとケンカをしているように見えることすらあります。かく言う私も、親しい研究者仲間と様々な話題について激論をよくかわします。専門分野の研究、学校教育、経済について、等々、あらゆる分野の話題で熱い議論になってしまうのは、研究者の職業病なのでしょう。あと、好奇心旺盛というのは、ほぼ全ての研究者に当て嵌まる共通項なので、酒の席での与太話でも自分の知らないことに関しては皆興味津々で話を聞きます。実は、酒の席での雑談が研究の新しいアイデアの元になったり、新しい共同研究の種になることもあります。意識しているわけではありませんが、自由な意見交換をする貴重な場になっているのかもしれない。

そんなわけで、研究者、いえ私は、しょっちゅう酒盛りをしています。外国なら屋外でバーベキュー、日本なら居酒屋、というのが定番です。これからの季節、バーベキューは厳しいのですが、外国には日本の居酒屋的な店があまり無いのが残念なところ です。



著者紹介 花垣 和則(はながき かずのり)

大阪大学大学院理学研究科・准教授

CERNでLHC実験に参加